

令和7年度の教育活動等に対する学校評価書

令和8年3月5日

学校法人貴庵寺学園リリー幼稚園長 川柳玄弘
学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

心ゆたかにたくましく生きる子

2 本年度の重点課題

- ①体験から学べる環境構成
- ②子ども同士の交流を深める環境構成
- ③身体を動かせる環境構成

3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価委員結果

	評価項目	具体的な取り組み	自己評価	評価	学校関係者評価委員会から
1	保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが自ら「あいさつ」をすることができる。 ・ 子どもの興味、関心を持続、発展することのできる環境づくり。 	A	A	来園すると自ら元気に挨拶をする子が増えた。園内を見回るとのびのびとした絵画の作品が飾られていて環境が整っている。
		2学期終業式全体で「あいさつ」ができていた子どもを褒めたことで、丁寧に挨拶する子どもが増えた。各学年で子どもにとって遊びが発展する環境づくりをしていた。			
2	保育のあり方 幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの良い所、がんばりをたくさん見つけて褒める。 ・ 子どもの育ちに対応した(寄り添う)保育をする。 	A	A	子どもの興味を上手くくみ取り保育につなげている。コマ回しや鉄棒、縄跳びなどの技を積極的に見せてくれる子が大きかった。その時の自信に満ちた顔が印象的だった。
		遊び(コマ回し、縄跳び等)、行事を通して、達成感を教師が認めることでよりいろいろなことにチャレンジする姿が見られた。			
3	保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの成長「おうちえん」でこまめに伝える。 ・ 懇談会、面接、電話で子どもの様子を伝える。 	B	B	おうちえんの配信で幼稚園での様子を見ることができうれしかった。担任の先生に会った時に様子を知らることができた。動画や写真の偏りをチェックする作業は大変だと思う。
		おうちえんでの編集、配信に教師も慣れてきて保護者に定期的に園の状況を伝えることができています。配信だけにとらわれず電話や対面でもできる範囲で子どもの様子を伝えている。			
4	地域の自然や 社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に配慮して、園周辺を散策して自然に触れる。 ・ 他園との交流を試みる。 	C	B	幼稚園の周りには美しい自然が残っているので触れる機会を増やしてほしい。他園や小学校との交流会は、視野を広げる体験になる。特に小学校との交流は、入学を控えた園児には先を見通すことができ期待感、安心感に繋がる。
		園周辺の散策、自然に触れることについてはなかなか各学年取り組むことが難しいようである。年長組の他園との交流や小学校の体験などができいい経験になっている。			
5	研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> 保育、安全、救急等、園内外の研修を行う。 「子どもの育ちを支える環境づくり～ごっこ遊びを通して～」について研究する。(保育) 	B	B	研修テーマに沿った積極的な取り組みで子どもの興味に合わせた保育内容や継続できる環境構成の工夫に取り組む先生方の努力が子どもの思考力、集中力、忍耐力を育てている。
		ごっこ遊びに関する環境づくりに関して、学年ごとよく考えて行っていた。子ども達で遊びを発展する様子も見られた。			

- * 結果の表示方法
- A 達成されている
 - B ほぼ達成されている
 - C 取り組まれているが、成果がやや不十分
 - D 努力を要する

4 本年度の総合的な評価結果

具体的な取り組みにも記入してあるが、今年度は、朝のあいさつを大きな声でお辞儀をしてしっかりすることができていた。

年長組は、コマ回し、縄跳び等個々に挑戦する子が多く見られ達成感を味わっている子が多かった。

各学年、保育室の環境づくりを行っていて、年少組は手作りの遊び道具を作るなど工夫をしていた。

今年度、各クラスでの劇参観会を復活することにした。職員には負担になる部分があったが、子どもの成長につながることで多く保護者も喜んでいて、職員の頑張りに感謝したい。

副園長の新たな取り組みとして、陶芸を各学年行った。年長組は親子で行い、保護者の造った茶碗は茶道で使用した。子どもの作品は造形展で展示した。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
現状維持	今年度の取組を単発にしないように継続する。